

全国で90%以上変異株に

新型コロナウイルス 重症化リスク1.4倍

国立感染症研究所は十二日、ほぼ全国的に90%以上が感染力が強い「N501Y変異」を持つ新型コロナウイルスに置き換わったとする分析結果を厚生労働省で開かれた専門家組織の会合で報告した。変異株で重症となるリスクが従来株に比べ一・四倍高い可能性があることも分かった。

新型コロナウイルス対応の緊急事態宣言が延長期間に入った十二日、国内では、新たに報告された感染者が七千人を超えた。七千人台は今年八日以来。専門家組織の会

合に先立ち、政府の対策分科会の尾身茂会長は衆院厚生労働委員会で、全国の感染状況について「一進一退の状況だ」と述べた。

感染症研究所によると、英国株などのN501Y変異を持つ変異株の割合は現時点で東京などの首都圏では90%を超え、京都・大阪・兵庫ではほぼ100%になったと推定される。英国株では従来株よりも、感染

が分かった際に肺炎以上の重い症状となっているリスクが一・四倍高くなることが判明した。

このほか研究所は、イン

ドで深刻な問題となっているインド株を、新たに監視が必要な変異株に加えたことを明らかにした。

専門家組織や尾身氏の感染状況分析では、全国の感染者数はほぼ高止まりから横ばいで、地域差が大きい。変異株の広がりが感染者を増やす一方、出歩く人が減り、状況を改善する要因となっている可能性がある。

専門家組織は、大阪、兵庫、京都では、今後新規感染者の減少が見込まれるものの、継続するか注視が必要と分析した。